

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078400100		
法人名	社会福祉法人 多聞福祉会		
事業所名	彌栄苑グループホーム		
所在地	八女郡広川町大字新代1432-1 (電話) 0943-32-5630		
自己評価作成日	平成23年4月4日	評価結果確定日	平成23年5月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所と同敷地内に診療所があり、利用者の急変時等に迅速に対応できるよう体制を整えています。
また、2週間に1回程度、花見や外食会、イベント見学等戸外への外出に積極的に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成23年4月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

国道から徒歩数分のやや高台にある事業所は、母体の診療所や併設の特別養護老人ホームと共に、灰白色の明るい洋風建物で落ち着きと安定感がある。母体が地域に根ざした診療所であり、医療、福祉、介護が備わっており、地域との関わりが継続され利用者や家族との信頼関係が得られている。したがって利用者や家族から「最期まで此处で過ごさせてほしい」との希望がある。この思いに応えるべく、全職員は利用者一人ひとりの日々の暮らしの役割りや、開放的な外出などを多く取り入れたり、地域行事への参加や事業所行事で交流するなどの機会を設け、利用者本位の支援に取り組み、ケアの向上を図っている。介護分野における地域の拠点になられるよう期待したい事業所である。

項目番号		項目	自己評価		外部評価	
自己	外部		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念にも「地域と共に」と掲げているように、地域との連携を持つように心掛けている。		全職員で平易で親しみのある事業所独自の理念を作り上げている。地域密着の視点が盛り込まれており、毎朝の朝礼時やミーティングに復唱し、再確認している。日々のケアの中で理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の区長や民生委員の方が時々来苑されているので、地域の高齢者の情報収集を行い、事業所の報告などをして交流を図っている。 また、区長や民生委員の方に来苑時に、ボランティアとして体操したり、レクリエーションに参加してもらっている。		事業所便りを地域へ回覧や配布している。廃品回収などの地域活動や地域行事にも参加している。 事業所主催のふれあい祭りに招待し、例年の餅つき大会には地域住民の参加がある。保育園児の来訪や中高校生の吹奏楽、短大生の実習等を受け入れている。近隣の人が立ち寄りたり、ボランティアの来訪がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や接し方、利用者の暮らしはまだまだ地域に知られていない部分はあると思うので、今後、地域において、勉強会や相談窓口を開いていきたい。		/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時利用者の状況や事業所の取り組み方を報告している。 役場の職員や民生委員、地域代表の方をメンバーに入れ、情報交換を行い、サービス向上に活かしている。		定期的に運営推進会議を開催している。利用者の状況や現在の取り組み、サービスの実際、評価後の取り組みなどを報告し、意見を聞くがあまり発言がない。例年開催している事業所の夏祭りの名称を「ふれあい祭り」に変更する事を相談し、委員から「町の広報紙に載せ地域に周知して貰ったら」などの助言を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には時々事業所に来て現場を覗いてもらい、日ごろのケアを伝えたり、情報交換を行ったり協力してもらっている。		月2回は町役場に出向いて更新申請を行う等、訪問や電話で相談や報告を行う等、日頃から連絡を密にしている。役場から介護教室の誘いの話を受けるなど、行政との協力関係が取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組むのは職員一同理解をしているが、事業所が二階にある為、事故防止の為、出入り口の施錠をしているので、これからの課題となる。		身体拘束のマニュアルを作成し、全職員外内部の研修を受けている。立地が2階のため家族の了承を得、玄関に施錠している。家族会でも了承している。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守り、声掛けを行い、一緒についていくなど安全に配慮をしている。近隣の人にも散歩時に挨拶を交わし協力をお願いしている。	安全を確保しつつ、工夫した支援で構造上の課題の検討を期待したい。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者への虐待は職員の間で絶対にならないように努めている。利用者への言葉使い、態度にも注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットで資料を出し、ミーティングの時話し合い、理解できるよう努めている。家族会時説明することもあった。	成年後見制度について利用者や家族などへ管理者が家族会で説明し、署名を頂いている。職員には資料を配布し伝達研修を行ない、いつでも説明ができ、必要時には活用するための支援ができるよう理解を深めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明を十分行い、その都度質問には答え、理解・納得してもらっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議と家族会を合同で開催し、意見交換会などを取り入れ運営に反映させている。	利用者や家族などが運営推進会議に出席されている。家族来訪時に声をかけ、意見や思いを聴くように努めている。拘縮のある利用者の家族とは、着易い寝衣や履き易い靴などについて話し合い、反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会を開き職員の意見交換を行い、話し合いの場を設けている。	全職員で自己評価に取り組み課題を知り、学習している。定例会議で入浴回数等についてカンファレンスを行い、気づきを盛り込んでいる。話しやすい雰囲気づくりに努め、個人面接も実施している。離職はないが、法人内の異動はあり、異動の際には、家族に対しても説明をしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各人に役割を持たせ、責任感、向上心を持てる職場環境を整えている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員採用時は、性別、年齢等について差別することなく、偏見をなくすよう配慮している。又、職員の能力を十分発揮できるように、人材育成に努めている。</p>	<p>職員の採用に当たっては、性別や年齢では排除しない。65歳での定年制度を設けているため、長期勤務に期待することはある。配置、昇進、教育訓練、定年、退職などにおいて差別はない。誰もが安心して生き生きと働ける職場環境を目指している。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>利用者に対する人権は、介護するにあたって十分に尊重している。</p> <p>人材教育については、外部研修を受け全職員へ周知している。</p>	<p>管理者は利用者の人権を尊重するために、人権に関する研修会への職員参加を奨励している。定例会議時（最終水曜日16時30分～18時位迄）には伝達研修を行い、後も課題に上げ全職員で検討し、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員育成の為に、すべての職員が外部研修を受けられるよう努めている。又、毎月の職員会議の中で勉強会を行っている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の施設の管理者や職員との交流を行い、情報交換をしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談から利用に至るまでに本人や家族からの不安や要望を開き信頼関係に努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族等の不安を聞き、相談する家族の立場に立って話をきくよう関係作りに努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の実情や要望を聞いたうえで何を必要としているかを見極め、対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護に当たりながら一緒に過ごすことで本人の個性や力を発揮するように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活を共に職員と家族が信頼関係を持ち、支えあうよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人が気軽に面会できるよう、雰囲気作りを心がけている。	管理者や職員は、利用者の馴染みの人や場所について把握しており、それらが途切れないように電話を掛けるなど支援している。受診の帰途、思い出の山に行きたいとの希望があり、近くまで行く等馴染みの場所へ行くこともある。また、友人、知人等の来訪もある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格などを把握し、孤立することがないように心がけている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者や家族にも時々連絡を取り、相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いを伝えらる人は多いので、なるべく一人ひとりの思いを聞き、希望に添えるよう努めている。	職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、表情などで思いや意向の把握に努めており、意思困難な利用者には家族などから情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が利用者の生活歴やこれまでの生活環境などを把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方、心身状態等を把握してケアに努めており、個々の介護日誌に、その日の過ごし方、心身状態などを記録し、利用者の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の職員会議で利用者の意見交換を行い介護計画を作成している。	本人の意向や家族の希望を取り入れ、担当制で職員の意見交換をし、それぞれの介護のアイデアを取り入れ、一人ひとりの介護計画を作成している。6ヶ月に1回、もしくは、状況に応じて見直しを行っている。介護計画には、家族から了承の署名・押印もある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアで気づき、工夫していかなければいけないことは記録し、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに応じて、多様な支援の方法を考え、柔軟な支援やサービスが出来るように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては、民生委員やボランティアの協力を得ている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の家族の希望を聴き、かかりつけの病院に受診させるようにしている。	殆どが母体診療所がかかりつけ医であるが、専門病院へは家族付き添いもある。通院介助はサービスの一環として対応し、家族と合意している。その際家族への情報の伝達は丁寧迅速にしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師の有資格者がおり、同じ敷地内に病院がある為、相談しながら受診や看護を受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、看護師の資格を有する職員の方から医療機関との連絡を取るようになっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて段階的に家族と話し合いを持ち、職員一同で検討している。	重度化や終末期のあり方については、重度化対策マニュアルで明文化されている。利用者及び家族の意向を大切にしながら話し合いを持ち、関係者全員で合意を図り「医療行為に関する意思確認書」を作成し、早い段階から方針の共有を図っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時、適切な行動をとれるよう、マニュアルを基に緊急時の対応として定期的に勉強会を開いている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に3回行っている。 夜間の場合の連絡網の実践も行った。地域を交えて訓練を行っていないので、次回地域との協力体制をとって訓練を行っていききたい。	災害時のマニュアルを作成し、年3回消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方を実施している。避難訓練時、地区長さんに声かけは出来ている。非常用備品が一部不備、非常用食料・飲料水の備蓄が切れている。	非常用備品及び、非常用食料・飲料水の常時備蓄が望まれる。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、言葉かけや態度には十分注意している。	特に排泄の誘導などは小さな声やアイコンタクトで促すなど、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや、対応に配慮している。内部研修やミーティングで職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では本人の希望や思いを引き出しながら、十分に意思表示が出来るよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴などは、他の事業所との関係上、時間を決めているが、その他の日常生活では、一人ひとりのペースを把握し、望んでいるペースでケアに努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分としての意識を大切にもらっている。身だしなみやおしゃれに気を使う利用者もいるので希望があれば支援している。2ヶ月に一度、外出して散髪に行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながらメニューを決めたりしている。職員と一緒に片付けなどを行う場合はある。	職員は利用者と一緒に食料の買出しから食材の下ごしらえ、テーブルセットや引き膳などの役割があり、同じものを一緒にとりながら食事介助、見守りが出来ている。献立も利用者の希望を取り入れたもので、クリスマス会や誕生会の行事食など楽しみな時間となっている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りがないよう、職員で栄養バランス、水分量など考えている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、利用者の口腔状態を把握し、清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレで用を足す支援を心掛けている。利用者の排泄パターンを把握し支援を行っている。	基本は2時間おきに排泄支援を行っており、それぞれの排泄パターンやサインを把握した支援が来ている。夜間のオムツ使用時はパットの大小の適切さや価格などにも考慮し、個々に適した支援をしている。便秘予防の食材を取り入れている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者のほとんどが便秘の方である為、水分を多く摂ってもらったり、副作用の少ない便秘薬などで対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	他の事業所との関係もあるので曜日や時間帯は決めている。	大まかな入浴時間の設定はあるが、週5日の入浴で利用者の極端な拒否はない。浴室からの景観や桧風呂、光明石温泉といった好環境での入浴は楽しい時間になっている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の利用者には、午前・午後どちらかで休息をとっている。日中はなるべく体を動かすなどして、夜間睡眠が取れるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが利用者の処方箋の用法や用量を理解している。飲み忘れや誤薬を防ぐ為に職員の方で管理し支援している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に掃除、洗濯物干し、たたみなど、役割を持たせ支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日など、週に1回は戸外へ外出している。買い物など希望が出るがあるので個別に外出する場合もある。	天気や利用者の体調に合わせて外出支援をしている。散歩は週3~4回、外食は月1回、食材の買出しに週2回同行してもらっている。ドライブは、四季の花見やイベント、からくり人形などの催し物を見学に行く。家族と協力しながら支援が出来る。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、お金を所持している場合もあり、社会性の維持のために所持や使うことに対しての支援を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが電話したりというのはほとんどないが家族からの手紙のやり取りはあるので支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節ごとに飾り付けをし、貼り絵など工夫している。	共用空間のリビングには利用者製作の桜の貼り絵が飾られ、優しい色合いで季節感がある。壁面には各催しの写真が多く飾られ、明るい笑顔がある。利用者は、程よい間隔の椅子で会話を交わし、リビングがそれぞれの居場所となっている。対面キッチンからの香りは家庭的であり、採光やテレビ・職員の音量も適切である。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなど時々配置を変え、気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のお気に入りの写真を飾ったり、絵を飾ったりしている。馴染みの物や使い慣れた好みの物を持ち込んでいいことは家族に伝えている。	居室はすっきりと整理されていて、ドアには部屋毎に好きな絵や写真が工夫されている。なじみの机・椅子・テレビ・整理筆・家族写真などを飾り利用者が安心して過ごせるよう配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一律バリアフリーの為、車イスなどでの移動はスムーズに出来る。手すりなどを各所に設置しているので、本人の出来る限り、使用するよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない